

第3節 本質的価値

保存活用計画にて定めた郡山城跡の本質的価値を以下に示す。

(1) 史跡の本質的価値

◆武家政権による畿内統治の支配拠点として整備拡充された城郭

郡山城は、近世を通じて武家による畿内統治の要所として重要な役割を果たした城郭であり、武家社会の実態やその歴史を知る上で高い価値を有している。

郡山城は、天正8（1580）年に筒井順慶が織田信長の命により大和国を治める拠点として築城した。天正13年に豊臣秀吉の弟である豊臣秀長が豊臣政権による畿内統治の重要な拠点のひとつとして大規模に整備し、秀長没後も豊臣政権の要職を担う人物が城主を務めて総構えを完成させた。江戸時代は水野、松平、本多、柳澤といった徳川譜代大名が城主を歴任し、幕藩体制においても畿内統治の一翼を担う重要な城郭として整備拡充された。

丘陵地に立体的に築いた大規模城郭で、城郭中心部からは南都の寺社や奈良盆地を一望できる。京都や大坂につながる諸街道にも近い、畿内統治の拠点として好適地にある。

◆豊臣期の城郭を基盤として近世城郭に発展した城郭

郡山城跡は、遺構の変遷過程から、近世城郭の基盤が豊臣期にさかのぼることを具体的に示す好例であり、近世城郭の成立や発展過程を知る上で高い価値を有している。

郡山城跡は地下遺構が良好に保存されており、発掘調査によって判明した織豊期から江戸時代にいたる各時期の遺構より、城郭構造の変遷過程を知ることができる。

本丸を中心に豊臣期の遺構が多く、豊臣期の城郭構造が具体的にわかる資料として貴重である。郡山城は豊臣政権の主要な拠点のひとつであり、大坂城や聚楽第といった政権の主要な城郭の多くが後世の破壊や改変によって実態がわからない中、豊臣政権による城郭政策の実態に迫ることができる城跡として、特に貴重である。江戸時代の遺構もよく残っており、遺構の変遷過程から、江戸時代の城郭が豊臣期の大規模城郭を大きく改変せずに整備されたことがわかる。

◆城郭石垣構築技術の変遷を伝える石垣が残る城郭

郡山城跡は、石垣の構造や技法を検証することで、近世を通じた城郭石垣の特徴や土木技術の変遷過程を知ることができる点で、高い価値を有している。

郡山城には大部分に石垣が築かれ、その多くが廃城時の状態を保ったまま現存している。

本丸の石垣は、特に規模が大きく、豊臣期に構築された部分も多い。石仏や寺院の礎石などを転用した石材を多く用いる点も特徴的である。秀長の築城時に奈良中から石材を徴収した記録があり、転用石材の多くはこの頃搬入されたとみられる。この規模で転用石材を多用する石垣は全国的にも稀有で、初期の城郭石垣構築技術を知る上で非常に貴重である。

本丸外周の曲輪群には、近世を通じて整備改修された石垣がある。こうした多様な石垣は、近世における整備状況の実態を伝える重要な資料である。

◆豊富な考古遺物や史料と遺構の変遷過程が対比できる城郭

郡山城跡は、考古遺物や絵図・文献史料から城郭遺構の変遷を具体的に対比することが可能である点で、高い価値を有している。

郡山城跡からは城郭に関わる遺物が多量に出土する。特に瓦は豊臣期の資料が充実し、大坂城や聚楽第など豊臣政権の主要な城郭との同範関係が確認できる資料が多い。本丸や二ノ丸など中枢部の曲輪では金箔瓦も出土し、豊臣期の城郭建築の実態に迫ることもできる。歴代城主の家紋瓦も充実している。法隆寺等の大和国の大寺院と同範関係が確認できる瓦も多く、城郭整備と在地における瓦の生産・流通体制とのかかわりを検討することも可能である。

城絵図も豊富で、城郭遺構の変遷を絵図と対比することが可能である。藩政史料も豊富で、武家による政策の発展が及ぼす城郭構造への影響を検証することも可能である。

◆現代の都市の礎となった城郭

郡山城跡は、遺構の変遷過程から近・現代における都市の成立過程に迫ることが可能であり、近世から現代までの長期にわたる社会の構造を反映する城跡として高い価値を有している。

郡山城の堀や町割り、水系は、廃城後も城郭機能時の構成をほぼ保ったまま近代化が進み、現代の都市に発展した。城郭構造の名残は現在も総構え内の各所で見ることができ、中心部の曲輪群はもちろん、旧城下町や旧武家屋敷地、外堀の付近でも、大部分が近世の城絵図に描かれた構造のまま都市として機能している。織豊期に基盤が整い江戸時代を通じて整備拡充された城郭が、近代以降は都市の礎として継承され、今日も都市の発展を支えている。

(2) 本質的価値に準ずる価値

◆地域のシンボルとして親しまれる、憩いの空間

郡山城跡と一体的な景観として形成された植栽は、城跡が地域のシンボルへと成長する活用の歴史を伝える要素であり、史跡の本質的価値に準ずる価値と評価できる。

郡山城は廃城後に一部が地域に開放され、地域のシンボルとして市民に親しまれてきた。都市公園として整備が進んだ市民の憩いの場でもあり、年間を通じて多くの祭りが催される賑わいの中核としても、多くの市民に利用されてきた。「日本さくら名所100選」に選ばれた桜や、市の樹木である黒松など、地域の活用とともに城郭遺構と一体的に形成されてきた豊かな植栽は、親しみある城跡の景観として市民の意識に深く根づき、今や城郭と不可分な要素となっている。

◆城跡と地域との営みを象徴する歴史遺産

郡山城跡の近代建築や再建城郭建築は、近代以降の市民による城跡活用の歴史を伝える歴史遺産であり、史跡の本質的価値に準ずる価値と評価できる。

郡山城は廃城後、神社や学校、地方史誌専門図書館、公園など、地域住民の営みとかがわりの深い施設がつくられた。柳澤神社本殿や柳沢文庫本館のような近代建築は、廃城後の城郭活用の歴史を伝える貴重な歴史遺産である。城跡内に移築された旧奈良県立図書館は、奈良県指定の近代和風建築で、「城址会館」の愛称で城跡と一体的に市民に活用され親しまれてきた。櫓や門、橋などの再建城郭建築は、市民が主体となり、郡山城跡の象徴として建造された。これらは郡山城跡の顔として、市民の意識に深く根づき、城郭と不可分な要素となっている。

(3) 構成要素の区分

郡山城跡の本質的価値をふまえ、史跡指定地内の構成要素を整理したものを下表に示す。

表 3-2 史跡指定地内の構成要素一覧

価値	構成する要素		性格		具体例	方向性		
本質的価値	構成する要素	本質的価値要素	城郭を構成するもの	縄張り遺構	史跡地と一体となり本質的価値を構成する	曲輪群	調査研究をおこなう 適切に保存する 活用を図る	
				遺物		石垣、土坡、堀など		
				環境		建物礎石、埋没石垣など地下遺構		
				史料		土器、瓦など城郭機能時の様相を示す遺物		
						地形		
				史料	史跡地と分離されるが、本質的価値を構成する	城郭に直接かかわる絵図・古文書		
本質的価値に関連する価値	構成する要素	本質的価値要素	近代以降の城跡利用に伴い地域のシンボルへ変遷する過程を示すものなど、史跡の歴史的重層性を示すもの	建造物など	史跡地と一体となり歴史的経緯を構成する	指定建造物(旧奈良県立図書館)、近代建築、再建城郭建築	調査研究をおこなう 適切に管理・保存する 活用を図る	
				遺構		養魚施設跡、神社など近代建築に伴う地下遺構、築城以前の様相を示す地下遺構		
				遺物				
				環境				
				史料	史跡地と分離されるが、歴史的経緯を構成する			城郭機能時の前後の時期に属する遺物
			桜、松など城跡活用の歴史を伝える植栽	適切に維持管理する 活用を図る				
			近代以降の絵図、文書絵葉書など	調査研究をおこなう 適切に保存する 活用を図る				
	保存・活用に有効な要素	史跡の保存・活用に資するもの	保存管理・活用のための施設	史跡説明サイン、柵、階段、史跡内照明、施設案内板、城内通路、展望施設、排水施設、石垣ライトアップ照明、電気・水道など地下埋設管、トイレ、史跡ガイダンス施設、城郭に関する石碑、史跡以外の文化財説明サイン、管理施設、防災・防犯関連施設	保存・活用のために維持更新・整備をおこなう			
						都市公園として整備された施設	曲輪などの説明サイン、ベンチ、四阿、園路	活用のために維持管理する
						近代以降の活用に伴う施設	神社関連施設、柳沢文庫（番屋カフェ含む）関連施設	保存や活用に影響がないよう、適切に維持管理する
憩いの場として整備された環境						都市公園整備事業に伴い整備された植栽 極楽橋周辺整備事業に伴い整備された植栽	適切に維持管理する	
その他の価値	構成する要素	その他の価値要素	史跡の保存活用に直接必要のないもの、または史跡になじまないもの	上記以外の施設	個人住宅 石碑(史跡に直接関係しないもの) 旧学校施設 遊具 祠(史跡に直接関係しないもの)	保存や活用に影響がないよう適切に管理し、長期的には整理や移設を検討する		
				上記以外の環境			未整備の自然植生	保存・活用のために計画的に整備する
				上記以外			道路関連	道路、道路関連工作物(道路標識、カーブミラー、反射板、歩車分離帯など)